

～新しいコミュニケーション方法を試してみよう～

教科・場面

訪問教育

授業・実践のねらい

- ・自分の身体の動きから、何かが起こることを感じる。
- ・心拍数以外の表現方法を知る。

対象の児童・生徒

中学部 訪問生 男児

人工呼吸器を常時使用している。
自発的な表出が難しく、サーチや心拍の数値、表情などから気持ちを汲み取っている。目が閉じているため音や匂い、温度などの感覚刺激を多く取り入れている。

教材・教具

- ・ピエゾ
- ・iPad
- ・ブルブルクッション
- ・iPad のアプリ（ピアノあそび）

工夫したところ

- ・スイッチが反応したら音が鳴るようにした。
- ・フィードバックをさまざまな感覚刺激にした。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

<生徒の実態>

舌の一部が不随意で動いている。このあたり
普段は心拍数やサーチ、表情で本人の表出としているため、
他の方法で本人の表出を促したい。



<使い方>

ピエゾを舌に接着する。外れやすいためコードをテープでとめるとよい。
生徒の入力刺激がかなり弱いため、感度は最大の 16 に設定した。
生徒は初めての取り組みだったことと、普段の授業で感覚刺激を
多く取り入れているため、やった感覚が分かりやすいように
スイッチを押すと感覚刺激が返ってくるようにした。

今回は感触 (A ブルブル) と音 (B ピアノ)。

A のクッションは、スイッチを押すとブルブルと振動  ように
改造されている。B は iPad のアプリ (ピアノあそび) で、どこを
タッチしても音楽を演奏できる設定になっている。

iPad に iPad タッチャーを接続してピエゾにつなげている。



A



B



授業・実践を通じた児童生徒の変容

母親が生徒の名前を呼ぶと、その声に応えるかのようにスイッチを押すことがあった。誰かの言葉かけをよく聞いていることが分かった。課題点は、舌へのピエゾの装着が難しく正確にできることが少ない。今後繰り返し行えば自主的な活動にもつながると考えている。